

平成 29 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 30 年 3 月 8 日現在

研究課題名	ソヴィエト文学と戦争記憶：ラスプーチンとアイトマートフを中心に	
申請者	氏名	所属機関・職
	前田しほ	人間文化研究機構・研究員／島根県立大学・研究員

研究成果の概要

報告者の最近の研究テーマは、旧ソ連諸国の戦争記憶とナショナル・アイデンティティの関係性であるが、文学作品も重要な研究対象としている。これまではジェンダーの視座から女性イメージを分析することが多かったが、現在、男性性にも焦点をあて、脱走兵を扱うワレンチン・ラスプーチン『生きよ、そして記憶せよ』とチングス・アイトマートフ『面と向かって』の分析を行っている。これらは今日忘れられた作品であるが、発表当時は話題を集め、特にラスプーチンについては分厚い先行研究の蓄積がある。2017年11月に滞在した際には、北海道大学所蔵の論文、著書、海外の学位論文、電子ジャーナル等数十件の閲覧・複写を行った。地方大学ではアクセスできる文献が限られており、国内では北大のみに所蔵されている文献をふくめ、網羅的に先行研究を収集することができた。

このテーマではすでに「ワレンチン・ラスプーチン『生きよ、そして記憶せよ』の脱走兵と匿う女の表象：ソヴィエト戦争神話の脱／再構築」（2015年度日本ロシア文学会東北支部第17回研究発表会、東北大学、2015年）、「The Representation of Soviet Homefront Women of the Great Patriotic War and Patriotism: Propaganda Art and V. Rasputin's *Live and Remember*」(The 48th Annual ASEES Convention、ワシントン、2016年11月19日)で論考を進めていたが、今回収集した文献によって、これまでの論考や仮説を洗い直し、ブラッシュアップして論文として発表するための作業に入っている。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。